

糖尿病・内分泌内科

■ スタッフ

科長		矢野 裕
副科長		鈴木 俊成
医師数	常 勤	12 名
	非常勤	3 名

■ 診療対象疾患・診療科の特色

当科は糖尿病などの代謝性疾患と、甲状腺、副腎、下垂体などの内分泌疾患の診断と治療を専門としています。

1) 糖尿病について

糖尿病は、世界中で増加の一途をたどっており、治療による血管合併症の抑制が、患者さんの QOL と予後を改善することが明らかになっています。しかし実際は専門医の不足等もあり、早期からの介入、血糖に対する治療が十分になされているとはいえない状況です。

糖尿病は、病態の解析、診断、治療の面において、近年飛躍的に進歩した分野といえます。原因遺伝子の特定、脂肪細胞の機能解析がなされ、インクレチン関連薬をはじめとする新たに解明された機序に基づく新規治療薬の開発、遺伝子工学的手法により開発されたアナログインスリンの導入、β細胞の再生や移植医療の研究等が、臨床に応用されてきました。今後も最先端の技術を駆使して、理想的な血糖を達成するため更に進歩していくものと思われま

す。糖尿病は「血糖上昇」という極めて単純な病気としてとらえられがちですが、その原因は生活の影響も含め、多くの因子が関与しています。従って、的確な治療を行うには個々の患者さんの病態と生活背景を把握することが必要です。当科では、患者さん一人ひとりの病態、生活に合わせたオーダーメイドの治療を行っています。

2) 内分泌疾患について

内分泌領域は、甲状腺疾患、先端巨大症、プロラクチノーマ、下垂体機能低下症、尿崩症、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症、インスリノーマ、クッシング症候群、褐色細胞腫等を診療しております。内分泌疾患は的確な診断と治療により患者さんの状態を大きく改善することができます。内分泌疾患を疑われたら、ぜひ当科へご相談下さい。

3) 他科との連携について

本邦では成人の4人に1人は糖尿病または糖尿病

予備群であり、今後も増加していくと予想されます。従いまして、救急治療が必要な方や、これから手術を控えている方、悪性疾患で化学療法が必要な方なども例外なく、糖尿病の方が多数おられます。また、そのようなストレス下では血糖値が高値となり、その変動も不安定となります。血糖コントロールが悪い状況では、傷の治りが悪く、感染が起りやすくなります。当科では、安心安全に手術や処置、治療を受けていただけるよう、他科と連携して血糖調整や内分泌疾患の管理を行っています。

また、内分泌疾患の中には、手術治療や放射線治療が必要な疾患も数多くあります。当院では内分泌疾患の手術、放射線治療を行っておりますので、各科と連携しながら最適な治療を行うことができます。

妊娠出産時にも糖尿病、内分泌疾患は非常に大きな問題となります。1型糖尿病、甲状腺疾患、下垂体疾患など、産科と連携しながら周産期の問題を回避し、より安全な出産をめざしています。

4) 当科スタッフの特色

当科は若手医師が多く活気にあふれ、診断および治療について常に新しいことにチャレンジしています。診療はチームで行い、カンファレンスで十分議論しながら、治療方針などを決めていきます。また基礎系研究室と共同で、大学院生を中心に糖尿病における新規治療法の開発を進めています。女性医師も多く在籍し、妊娠出産、育児期には全科員で支援し、安心して復帰、継続できる体制をとっています。

また他科医師、医療スタッフ等とも連携しながら、患者さんに寄り添った診療を心がけています。糖尿病専門看護師、糖尿病療養指導士も多数在籍しており、「糖尿病教室」や「糖尿病看護外来」「フットケア外来」「透析予防看護外来」なども開設しています。

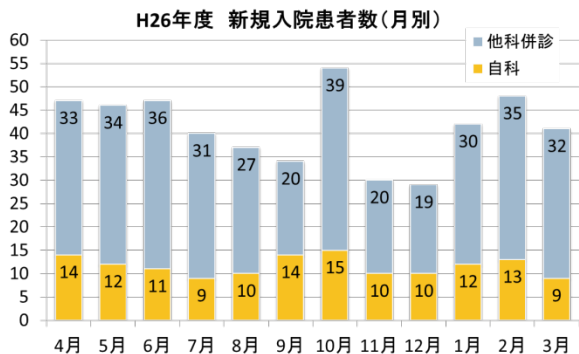
■ 当科スタッフの取得専門医

日本糖尿病学会研修指導医・専門医、日本内分泌学会指導医・専門医、日本肥満学会肥満症指導医・専門医、日本内科学会総合内科専門医等。

なお、当施設は日本糖尿病学会および日本内分泌学会の専門医教育施設に認定されています。また、日本肥満学会 認定肥満症専門病院でもあります。

■ 診療実績

当科の平成 26 年度の外来件数は 12480 件、診療患者実人数は 2218 名、入院患者数は 139 名、他科入院併診患者数は 347 名でした。



1) 糖尿病

1型、2型、他疾患に伴う二次性糖尿病（膵疾患、ステロイドなど）ならびに、糖尿病合併妊娠など、様々な背景の糖尿病を対象としています。

平成 26 年度の診療実人数は 1401 名で、1 型糖尿病は 106 名、2 型糖尿病は 1098 名、二次性糖尿病他（2 型糖尿病との合併も含む）は 205 名でした。

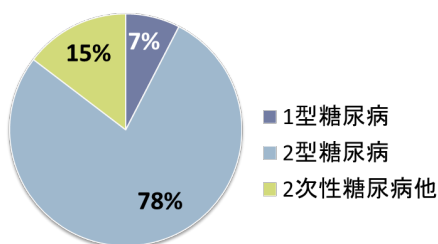


図1 当科の糖尿病患者の病型(H26年度)

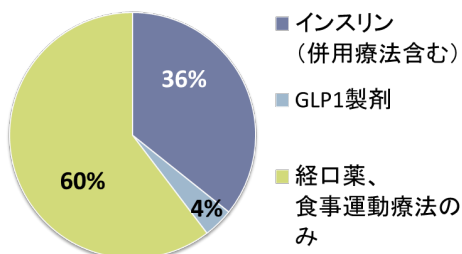


図2 当科の糖尿病患者の治療内容(H26年度)

2) 内分泌疾患

当科では下記の様々な内分泌疾患の診療を行っています。平成 26 年度の診療実人数は 1344 名でした。

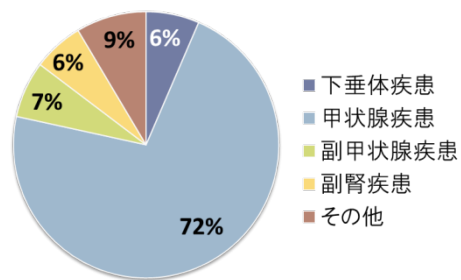


図3 当科の内分泌疾患内訳(H26年度)

- ・甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、亜急性甲状腺炎など）
- ・下垂体疾患（下垂体機能低下症、クッシング病、プロラクチノーマ、先端巨大症など）
- ・副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫など）
- ・その他（副甲状腺疾患、インスリノーマ、性腺機能異常など）

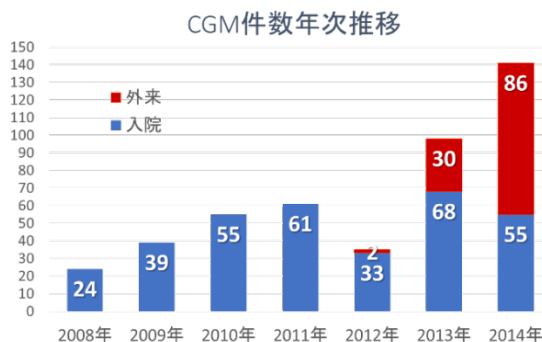
3) その他

脂質異常症、肥満症などの生活習慣病や、2 次性高血圧症など

■ 診療内容の特色

1) CGM（持続血糖モニター）

CGMは一日の血糖変動を就寝中も含め継続的に観察できる血糖測定モニターです。この検査により、無自覚低血糖や夜間の低血糖など一日の血糖プロフィールをより細かに把握し、より安全な血糖コントロールをめざしています。平成 25 年度より外来でも検査可能とし、平成 26 年度からは、他施設で治療を受けている患者さんにも、より検査を受けていただきやすい体制としました。



2) グルコースクランプ法（人工膵臓）

インスリン抵抗性の評価、至適インスリン用量の決定をするための検査法です。現在インスリン抵抗性の評価としては最も信頼度が高いとされています。

■ 地域連携の取り組み

全ての患者さんが専門医によって治療を受けているわけではありません。日々進歩する診断、治療法など、非専門医の先生方と情報共有を図り、患者さんにとってより有益な治療が行えるよう、当科では様々な研究会を開催し、また日常診療においてもよりスムーズな診療連携体制をめざしています。

平成 26 年度は三重県から委託を受け、県民、患者、医療関係者を対象とした、三重県の様々な糖尿病に関する情報を発信するホームページ「みえ糖尿病サ

「ポートねっと」を立ち上げました。(糖尿病の基本情報、医療機関情報、研究会情報、地域連携の取り組みなどを掲載) 今後も引き続き各関連団体と連携しながら、糖尿病の認知度向上、啓発、多職種連携、地域連携をよりすすめていく計画です。



URL : <http://mie-dm.net/>

■ 臨床研究等の実績

1) 学会発表

- ◆第 57 回 日本糖尿病学会年次学術集会
 - (1)無採血の組織液抽出技術を用いた夜間 8 時間にわたる血糖時間曲線下面積の測定
上村 明 他
 - (2)糖尿病患者における尿中 CPR と夜間血糖の日差変動(MODD), 日内変動(MAGE)についての持続血糖モニター(CGM)を用いた検討
古田 範子 他
 - (3)当院におけるインスリン使用中の若年発症糖尿病患者についての検討
橋本 礼 他
 - (4)当院におけるリナグリプチンの使用経験
岡野 優子 他
 - (5)脂質異常症を伴う 2 型糖尿病患者におけるアナグリプチンの有効性の検討
堀田 康広 他
 - (6)プロテイン S トランスジェニックマウスにおける腎症の進展と抗炎症作用の解析
矢野 裕 他
 - (7)ストレプトゾトシン誘発糖尿病の β 細胞障害に対するプロテイン S 過剰発現の影響
安間 太郎 他
 - (8)インスリン治療中の糖尿病患者における外来 CGM による夜間低血糖の検討
大西 悠紀 他
 - (9)インスリン治療に DPP4 阻害薬を追加した際の血糖推移の検討
竹下 敦郎 他
 - (10)当院におけるインスリンデグルデクの使用経験
林 豊美 他
 - (11)糖尿病における内臓脂肪と脳・心血管無イベント

- の関連性
原 なぎさ 他
- (12)外来 2 型糖尿病患者における持続血糖測定を用いたインスリンデグルデクとインスリングルルギンの比較(クロスオーバー試験)
金児 竜太郎、西濱 康太 他
- (13)特発性血小板減少性紫斑病および糖尿病治療中に α -グルコシダーゼ阻害薬の関与が疑われる腸管気腫症をきたした一例
中嶋 祥子 他
- (14)ペン型インスリン注入器用注射針の使用感についての検討
永田 裕章、西濱 康太 他
- ◆第 223 回 日本内科学会東海地方会
- (15)増殖性網膜症を契機に発見された 2 型糖尿病の一例
岡野 優子 他
- ◆ MSDA2014 9th Metabolic Syndrome, Type2 Diabetes and Atherosclerosis Congress
- (16)Anagliptin affects lipid metabolism in patients with Type2 diabetes mellitus and dyslipidemia.
Y.Hotta, et al.
- (17)Differences in the clinical characteristics between young onset adult type1 and type2 diabetes mellitus under insulin treatment.
R.Hashimoto, et al.
- ◆第 29 回日本糖尿病合併症学会
- (18)持続血糖測定を用いた血糖変動指標と糖尿病合併症の関連についての検討
西濱 康太 他
- ◆第 88 回日本糖尿病学会中部地方会
- (19)MDS に合併した膵島細胞質抗体陽性劇症 1 型糖尿病の 1 例
尾崎 加奈子 他
- ◆第 24 回臨床内分泌代謝 Update
- (20)非典型的な下垂体機能検査を示した嚢胞性腺腫による Cushing 病の 1 例
古田 範子 他